

平成25年度 一般選抜中期日程／国際商学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I

問 1

[a] by, [b] with, [c] for, [d] at, [e] toward が正解である。[b][c][d] はほとんど正解していたが、[a]と[d]については逆に正解が少なかった。

また、単語の筆記について、u と w、t と f の区別がつきにくい文字が多かった。ただし正しいスペルで書けるだけでなく、アルファベットの正確な表記にも気を付けてほしい。

問 2

一続きの英文を 4 分割して採点した。20 点満点の問題だが、全体的に読めておらず、ほとんどが 10 点未満の回答だった。anything, basically, that women can do という関係代名詞の付いた名詞句の理解が低かった。また、construction and manufacturing jobs were scarce の scarce を scared と読み間違え、「怖がって」とする誤りが目立った。

問 3 (15 点)

【解答の傾向】

「彼らの父親達の仕事に対する夢」についての解答では、正解あるいは不正解を別にして、ここまでの文章のうち主に以下の三つのセンテンスのいずれかを参照していた。

(1) 2 行目の、…waiting tables that have long been the province of women.

(2) 7 行目以下の、American dream について。

さらにこの部分は、①but 以下に触れず not in terms of …だけを、②not 以下に触れず but as something more basic — a home, …だけを、そして③双方に触れているものがあった。

(3) 13 行目の、…to make inroads into prestigious, high-wage professions dominated by men

【採点の基準】

1. (1) だけのものは、「女性優位の職業に就くこと」「男性優位の職業に女性が進出すること」といった内容なので、英文全体を理解していないため、0 点とした。

(全体の 3～4 割程度がこのような解答)

2. (3) を参照にした解答は 8 点以上とした。さらにこれに加えて (2) の①にも言及している解答は 11 点以上とした (但し、このような解答は全体の 1 割程度)。加点要素は、これらの英文の理解の程度。

3. (3) を参照にしつつ、(2) の②にも言及している解答には対応に苦慮した。「学位を取得して男性中心の高賃金の専門職に就き、贅沢ではないが、資金面の安心と若干の余裕を得る」といったたぐいの解答である。採点に当たっては後の英文を読む限り減点するのも適切ではないような気がしたので、8 点を中心に採点した。

4. (2) の①と②に言及している、というよりはこのセンテンスの訳文を解答としたもの (全体の 3～4 割程度あった) は、基本は 0 点だが、訳文の出来栄が良いものは、英語の読解力は多少あるものと判断して 2 点～5 点で採点した。

問 4 (15 点)

全体として、この問題については、白紙答案が多い。模範解答は下記の通り。

学歴や収入の高低に関係なく (採点箇所 1)、従来、女性が就くことがほとんどだった職種に男性が就くよう

になったこと（採点箇所2）。

このように2分割して採点した。「学歴や収入の高低に関係なく」という条件は、パラグラフを読めばすぐに読み取れるが、ほとんど言及がなかった。

問5 (15点)

①全体として、この問題については、白紙答案が多い。

②白紙でない答案では、大意をとらえたものは多い。ただし、男性の昇進の容易さだけを指摘したものがほとんどで、女性の場合について対比的に書いている答案が少なかった。男女の対比をしっかりと書いていないものは、減点している。

③glass-escalator, glass-ceiling の意味を正確に訳している答案は、極めて限られていた。また、単語力の不足を感じさせるものとして、ceiling の語訳が顕著であった。多くの答案で、sailing との勘違いが多く、「舟をこぐ」「航海」と訳している答案が多かった。また、glass についても、「芝生」と語訳した答案が少なくなかった。文意を考えるとありえない訳だけに、英文の読み方として気になった。

④male-dominated, female-dominated をうまく訳出できていない答案が目立った。「男性雇用者」とか、「女性が経営している」などの語訳が多かった。

⑤語訳として、上記以外のもので特に気になったのは、以下のものである。‘professions’ の語訳で、「教授」「プロ」「会社」というミスが特に目立った。

⑥文章については、字数が極端に少ない答案や、句読点、特に点がほとんど打たれていない答案が多く、気になった。

問6 (15点)

英文和訳の問題で、満点の解答が少なかった。ここでは occupation は職業の訳語が適切だが、役職、支配、占領地、独占、占拠、分野、機会、共有、占有など、他の単語との読み誤りも含めて、的外れな訳文になったものが目立った。他に、wages には賃金、給料といった訳語が適切だが、波、必要性、地位という誤訳が目立ち、share には割合と訳すところを、税、需要、供給量、共存といった訳語が目立った。分からない単語は、自分の知っている簡単な単語に置き換えて、無理に訳語を与えてしまう傾向が憂慮される。

問7 (15点)

【解答の傾向】

「仕事と家庭の重要さ」の比較が明確に述べられている解答を期待したが、傾向としてはオズボーンの母国と米国での職業経験の比較だけを記述した解答が大部分であった（7～8割程度）。具体的には、…joked that の that 節で書かれてある職業経験を訳した解答が大部分であった。もしかすると、受験生の多くは priorities の意味が分からなかった、あるいは理解できなかったのかもしれない。

【採点の基準】

(1) 本来正解とはならないが、that 節の訳文に近い解答には0点～7点の範囲で採点した。内容のニュアンスは別として英文そのものはそう難しくはないので、4点～6点ぐらいの採点が多くなった。

(2) その上で、「仕事と家庭の重要さ」の比較にそれとなく触れている解答は8点～11点、明示的に記述されているものについては12点～15点の範囲でそれぞれ採点した（これは全体の1割未満）。

(3) 英文全体は理解していないにもかかわらず、priorities の意味は分かっていた受験生もいたようで、単に「仕事と家庭」と記述した答案が数枚あった。余白部分が余りにも目につく場合は、7点を上限に採点した。

問8 (20点)

要約問題で、模範解答は下記の通り。

家庭と職場の役割分担は連動しており(採点箇所1)、家庭で男性が家事を多く受け持つようになると、男性が希望する職種への態度も変わり(採点箇所2)、家事に類した仕事に男性が就くようになる(採点箇所3)。

このように3分割して採点したが、ほとんどが採点箇所1にとどまり、採点箇所3まで言及した解答は1割に満たなかった。そのため、半数以上が10点未満の解答だった。

II

問1 (各15点)

(1) 日本人は、なかなかつかみどころがない民族だと言われます。なんと日本人自身がそう言っていることもよく耳にします。(2) 感情の起伏を率直に表さないで、何を考えているかわからない。

【解答の傾向】

個々のスペルミスについてはあまり触れないことにする。Japanese という単語に対しても間違ったスペルの答案が目についたし、「民族」にあたる race にしても lace や lase を始め、様々なスペルがあった。tribe が仮に「植民地時代の先住民に対する白人の態度を思い起こさせる語」(『ジーニアス』) であるとするならば、ここは簡単に a people で充分であったと思う。(2) の方のスペルの問題をあげるならば、express とすべきところを expless など基本的なものが出来ていないことがある。さらに、覚え違いで explain とする解答も多数見られた。

構文上の問題点としては、予想した通り、Japanese people are said that とするものや、I hear that と書き始める答案が多く見られた。

【採点の基準】

上記の傾向を考え、スペルミスについては-1点とし、構文上の問題としては上であげた答案については-3点とした。

問2

Candidates were asked to answer a question about a hypothetical rule at a university stating that all students attending this university were to spend a year overseas as part of their degree requirements. Candidates were expected to state if they agreed or disagreed with this, and to give at least two reasons to support their stance.

We hoped candidates would answer following the pattern below:

Recently, the number of Japanese students who study abroad has been decreasing, so I agree that universities should do something to encourage more students to go overseas. However, I do not agree with the new rule. There are two reasons. Firstly, many students will not be able to afford to live overseas for a year. Living overseas costs a lot of money, and making it compulsory for students to spend one year overseas will place a huge financial burden on students and their families.

Secondly, there is no guarantee that living overseas for a year will be beneficial for students. Some students may end up doing nothing but watching television and playing games all year. This would be just a waste of time. For these reasons, I am against the new rule.

Overall, most candidates were able to answer the question, with many giving acceptable responses were they stated their stance and then supported this with two (or more) brief arguments. In the best

responses the candidates were able to put forward a good, logically structured response showing what they thought of the rule and their reasons why.

One common issue was that the answers did tend to be quite short. Candidates were asked to answer using approximately 100 words, but there were a lot of responses around the 70 to 80-word mark. Where possible it may be better to aim for the upper word limit so as to be able to better explain ideas and structure a good response. However, don't just write to reach the word limit. Some good responses were quite short and to the point, but there were some that were long and unstructured and difficult to understand.

Other common issues were similar to what we have seen in past years. One was a problem with showing logical consequences. Responses such as the following were common:

X *I agree with this because I have two reasons*

As in the past, there were also a number of problems with opening sentences and introductory arguments. The following type of answers often appeared:

X *I agree with this idea. I have several reasons*

X *I agree this rule*

Candidates also need to be careful with verb tenses, as they tended to freely mix past, present and future forms.

Similarly, there is a need to be careful with the use of personal pronouns, as there was often a lack of agreement between them, with cases such as the following being quite frequent:

X *I think it's a good idea to spend a year overseas. If they can do it, we can improve our language skills*

Confusing usage of "there" was also common, such as:

X *We can study there way of life*

In this case, it is not clear if the candidate meant to say

We can study the way of life there

Or

We can study their way of life

Finally, a few small points stood out. Don't equate Americans with all speakers of English. And if you're making factual claim, ensure you have your facts right, having candidates mention that "Hindus don't eat pork" or talking about "the 2011 Kanto earthquake" detracts somewhat from otherwise good responses.